

## 共鳴する身体

——アメリカにおけるダンスムーブメントセラピーとダンスアート——

大 岩 雅 子\*

### はじめに

からだの動きには、常にその人の意志や感情などが表れている。また私たちが普段行っているコミュニケーションというのは、約90%が非言語、つまり表情や声のトーンなどを含む身体によるものであるといわれている。ダンスもそのひとつで、人類の誕生以来、あらゆる時代、地域、場面で人と人とを結ぶ重要な役割を果たしながら、現在の劇場舞踊にまで発展してきた。

留学先のアメリカフィラデルフィアでは、セラピーやアート、またコミュニティの場に幅広く普及しているダンスに触れた。これをもとに、ダンスまたはムーブメント（からだの動き）について「共鳴する身体」と題し、以下の3つの視点から考えてみたい。

1. ダンスムーブメントセラピー
2. アメリカにおける9.11後のダンスアートの動向について
3. ダンスを通して異文化に触れた体験について

《カポエイラの演技（5分）、ダンス作品“Saa/Kono=Snake/Bird”〔陰陽〕（2004/2/7.8上演）制作・出演 Angela Watson & Masako Oiwa（16分）をVTRで紹介》

### 1. ダンスムーブメントセラピー（DMT）

DMT とは、踊ることへの基本的欲求に支えられた、動きを用いて行う心理療法

---

\* 広島経済大学経済学部助教授

の1つである。1940年代のアメリカにおいて、精神科の施設内で教えられていたモダンダンスが、治療的效果があると認められたのが始まりといわれる。モダンダンスは、華麗さや美しさを追求するバレエとは異なり、人間のもつ苦しみや喜びなどのあらゆる感情を自由に表現するダンスである。そして、DMT では、この舞踊体験に含まれるカタルシス効果や治療効果が注目された。また、多くのダンサー達が深層心理学のパイオニアであるフロイト、ユングらの「あらゆる心的エネルギーは身体部位に表れる」という、DMT に一致する論点に基づき、理論的アプローチを進めた。<sup>(1)</sup>

1966年、アメリカンダンスセラピー協会（American Dance/Movement Therapy association；ADTA）が発足し、1984年日本で初めてアメリカのDMTのワークショップが開催され、1991年には、日本ダンスセラピー協会（Japan Dance/Movement Therapy Association；JDTA）が設立された。このころから徐々に日本でもDMTという名が知られるようになった。現在アメリカでは、約1,000人以上のADTA会員が存在し、その内訳は多い順にNY州、カリフォルニア州、ペンシルバニア州と続く。またアメリカ以外では、カナダ、ドイツ、日本など22カ国から、合計約100人の同会員を集めており（2003年会員）、そのうち11カ国は、その国独自のダンスセラピー協会を設立している。毎年1回行われるADTAの国際学会では、各国の代表が参加し、ダンスセラピーの現状と今後の発展について情報交換と議論が交わされている。

アメリカにおけるDMTは、精神病院、刑務所、リハビリ施設、学校、児童健康増進センターなどで、個人的に、また家族やグループなどのさまざまな対象に対して年齢を問わず幅広く行われている。セラピストは、精神科医によって診断された病名と患者の置かれた生活環境などを把握した上で患者と関わり、即興的な身体の動きを通して、患者の動作観察、分析を行い、常に直感を働かせながら信頼関係を築いていく。

現在のDMT研究では、セッションの中で生じるダンスセラピストとクライアントとの「共感作用」が治療に効果的であると報告されており、この「共感作用」によって、患者の自尊心やボディイメージ、コミュニケーション能力などが養われ、直面する問題に対処するための新たな視点が得られると評価されている。筆者は、留学先で体験したグループセラピーや個人セラピーの実習を通して、他人の身体と共鳴しあう場面に何度か遭遇した。身体のリズムや、動きに伴う感情、呼吸や笑いなどのタイミングがシンクロナイズするとき、心が拓かれ無意識の中にある感情が表出され始める。共感とは、人と人とのコミュニケーションにおいて最も基本的で且

つ必要不可欠であり、動作分析や心理学などの視点を活用すれば、よりいっそう研究の可能性や信憑性を高められることを実感した。

## 2. アメリカにおける9.11後のダンスアートの動向について

2001年9月11日、アメリカの「現代の芸術の都」として知られるニューヨークの栄光は、奈落の底へと突き落とされた。ニューヨークは、美術作家、彫刻家、画家、建築家、舞踊家、作曲家、ファッションデザイナー等、さまざまな芸術家と芸術活動を支援する人々により、戦後以降、その名声をほしいままにしてきた。しかしながら、9.11の悲劇は、アメリカの経済の象徴である、ニューヨークの世界貿易センタービルを破壊し、センタービル内の日本企業30社を含む、合計298社すべてを崩壊させ、亡くなった犠牲者3000人余りを記録するなど、世界的・歴史的事件として人々の心に焼き付いた。9.11以降、アメリカ経済、芸術支援体制、ダンスアートの現状について調査し、アメリカにおける9.11後のダンスアートの動向について検証する。

9.11直後のアメリカ経済は、陸路・空路の遮断によって多くの企業活動、旅行関連業界の活動が妨げられ、大きな打撃を受け、2001年3月に始まった緩やかな景気後退に追い打ちをかけた形となり、戦後初の世界的に深刻な景気後退を引き起こした。しかし、その後、「コクーン（繭化）現象」<sup>(2)</sup>が、皮肉にも個人消費を下支えし、急速な景気回復に一役買う形となった。この他、アメリカの軍事行動が予想以上に進展し、9.11で落ち込んだ投資家心理が持ち直し、さらに減税と9.11後の政府支出大、個人消費の増加などが驚異的な景気回復に寄与したことから、改めてアメリカの経済力の強さを再認識させることとなった。<sup>(3)</sup>

アメリカにおける公益寄付金、助成金などの経済的支援体制について、調査する過程で注目したのは、アメリカはフィランソロピー先進国といわれるように、民間が行う非営利活動が、他の国に比べて非常に盛ん且つ一般的であるという点である。それらは、非営利団体に対し所得税の優遇措置がとられていること、個人や企業に対して公益寄付金控除制度が設けられていること、またこれらの活動の実態が広く情報公開されていることなど、非営利活動を活性化しやすい環境が整っている点である。年々増加の一途をたどっている民間から寄せられる公益寄付金の4つの供給源は、個人の寄付が全体の約76.3%（1830億ドル）、続いて助成団体が11.2%（2690億ドル）、遺贈が7.5%（1810億ドル）、企業が5.1%（1219億ドル）を占め、個人寄付額が圧倒的に多い。またこれらは、次に分類する組織の活動に分配されている。

1) 福祉 2) 健康 3) 教育 4) 芸術文化 5) 社会活動 6) 科学技術 7)

環境・動物保護 8) 国際関係 9) 福祉 10) 宗教 11) 財団。<sup>(4)</sup>

9.11以降、その影響として国からの助成金削減には直面したものの、助成金団体からの寄付金は、3年間にわたる株式市場の低迷にもかかわらず比較的安定していると報告され、さらに、9.11に対する企業からの救済支援の継続、新しい助成財団の設立、助成金の縮小を最低限に抑えようとする財団の動きなど、さまざまな対策により例年と比較し、大きな影響を受けることはなかった。<sup>(5)</sup>

9.11後のNYのダンスアートの現状に至っては、被害にあったスタジオやホールへインタビューを行ったところ、数日間の閉鎖の後、ダンサーと客が戻り次第、再開されていた。また、救済活動としてのイベントやダンスパフォーマンスが数多く行われ、チケットが発売されるNYのタイムズスクウェアでは、まれにみる行列ができたという報告もあった。<sup>(6)</sup>

ダンスアーティストを対象とするアンケート調査においては、9.11後、著名なダンスカンパニーでは、年間計画や海外公演などのキャンセルによって大きな被害を受けたところもあったが、アーティストとしての創造性や情熱の向上、一般の人々を含め世界観や社会学的視野に対する意識改革の機会を得たこと、そして政府の芸術に対する理解が深まり、その重要性が認識されたことなどが挙げられた。

以上の調査結果から、アメリカにおける民間主体の芸術支援体制の充実と、人々のダンスアートに対する期待の大きさを改めて認識することができた。また、個人の自由や理想を追い求めるアメリカの国民性と、互いに助け合って共感しあう人々の生活の営みを垣間見た思いがした。

### 3. ダンスを通して異文化に触れた体験について

留学先のフィラデルフィアでは、あらゆるジャンルのダンスを体験することができた。雑誌や広告で見つけたダンススタジオや、ワークショップを通して、ヒップホップ、カポエイラ、アフリカン、コンタクトインプロビゼーション、コンテンポラリー、ジャズ、モダンダンスなど一通り参加するチャンスを得た。初回時にはお互いに面識がなく、まさに人種のるつぼの輪の中に、日本人の私がひとり加わるといった状況の中、私は期待と不安、そして緊張と興奮の連続であった。

最も夢中になったのは、ブラジルの国技であるカポエイラである。これはもともとポルトガルの植民地だったブラジルに、サトウキビ栽培の労力としてブラジルに連れてこられたアフリカ人奴隷の反抗と自由を勝ち取るための手段として用いられた格闘技で、ピリンバウと呼ばれる楽器とラダイーニャという唄が、カポエイラを盛り上げる重要な要素となっている。<sup>(7)</sup> これらの音楽と動きの調和が心地よく、足技

を中心にアクロバティックな技や回転系の動きをテンポよく巧みに取り入れた動きは、ダンスとしても捉えられ、最近日本の若者の中でも流行中である。カポエイラにおける皆でとり囲む輪は、地球の輪といわれ、円の形はそこに居合わすものの力を結集し、丸いものには力が宿るとされる<sup>(8)</sup>。また、輪の中で向かい合う二人のダイナミックに対話する身体は、周りの者の運動共感を呼び、その空間は天地に共鳴するかのようなエネルギーな一体感をもった。私は、皆の唄声や楽器の音色、そして共鳴する身体を体験する中で、カポエイラの紆余曲折を経た歴史上の発展の経緯に触れたような気がした。

また、ダンスを通して出会ったアフリカンダンサーの友人と共演するチャンスを得た。一つの作品を創作する過程で、文化や言葉の壁を越えた深い交流が持てたことは、生涯を通して大変貴重な体験となった。公演当日の舞台は、会話のないダンスシーンであったが、共演したパートナー、そして観客の皆とたくさんの言葉を交わした有意義な時間であった。

## おわりに

アメリカでの留学体験をもとに、3つの視点から「共鳴する身体」について考えてみた。今後、民族的背景も視野にいれた身体を通したコミュニケーションの意義、共鳴する身体的重要性について研究を深めたい。

## 注

- (1) Schmais, C (1974): "Dance therapy in perspective," *Dance therapy: Focus on dance VII*, pp. 7-12.
- (2) テロ後、「コクーン（繭化）現象」という言葉が流行った。テロのショックから消費者が遠出の旅行や買い物、外食などを敬遠し、蚕が繭を作るように自宅にこもるための商品やサービスを求めるようになったことを指す。このため、家庭で映画などを楽しめるDVD プレイヤーが爆発的に売れた。全米の世帯普及率は36%と一年前の三倍に拡大した。ネットで生花の宅送販売も急伸した。www.notnet.jp/data/21206.htm
- (3) 「米経済は5%成長から01年後半1%へ減速、第3四半期にはマイナス成長となった。しかし第4四半期は前期比1.7%と大幅なプラスとなり急速に回復している。個人消費は歯止めが掛かり02年から急上昇し大幅な拡大が期待される。住宅投資、民間設備投資など増加に転じ、雇用情勢にも明るさが見えている」（総領事館）としている。www.notnet.jp/data/21206.htm
- (4) AAFRC (The American Association of Fundraising Counsel), "Giving USA 2003", pp. 8-11.
- (5) Loren Penz, Leslie Marion, "Giving in the Aftermath of 9/11," The Foundation Center, December 2003, pp. 1-16.
- (6) Patrick, K. C. "Aftermath: six months after 9-11; Dance Companies and Dance

Schools after September 11th, 2001," *Dance Magazine*, April 01, 2002.

(7) カポエイラ入門。www.geocities.co.jp/Athlete-Athene/9701/

(8) カポエイラの起こりと成り立ち。http://bahiabeat.at.infoseek.co.jp/angola.htm

### 参 考 文 献

ジャック・アンダーソン (1993), 湯河京子訳『バレエとモダンダンス—その歴史』, 音楽之友社。

ジョアン・チョドロウ (1997), 平井タカネ監訳『ダンスセラピーと深層心理学』, 不味堂出版。

Michael E. Lewitt, "Economy still heading downward: the terrible events of September 11 effectively rendered moot all prior economic forecasts. Now, the economic outlook is murkier than ever," *Trust Estates*, Dec 2001, 140, pp. 17-20.

ヘレン・レフコ (1994), 平井タカネ監修, 『ダンスセラピー』, 創元社。

ジョアン・ルイン (2002), 平井タカネ監修, 『ダンスセラピーノート』, 小学館スクウェア。

塩谷 陽子 (1998), 『ニューヨーク 芸術と共存する街』, 丸善。

Aysar Philip Sussan; Reem D. Kassira, "The U. S. economy and global impact after September 11, 2001," *Global Competitiveness*, Annual 2002, 10, pp. 146-54.

八木ありさ (2003), 「ドイツにおけるダンス・セラピーおよびダンス・セラピスト養成の現状」, 『日本女子体育連盟学研究』第20号。